

タイ王国/アーコム前運輸大臣による国際セミナー
「交通分野における日・タイ関係の現状と展望」
国土交通省 藤田 耕三 国土交通事務次官 来賓挨拶

ご紹介いただきました、国土交通省の藤田でございます。

まず、アーコム前大臣を心から歓迎申し上げますとともに、本日このような形で講演いただきますことを、私の立場からも感謝申し上げたいと思います。また、アーコム大臣の運輸大臣ご在任中、日本とタイ国との交通分野との関係が非常に強化されましたが、このことに大きく貢献いただきましたことに、心から感謝を申し上げたいと存じます。

アーコム前大臣のご在任中には歴代の私どもの国土交通省の大臣はじめ、大変多くの日本側関係者とお会いいただく機会がございました。そうした折に国土交通省の事務方にも非常に気さくに接していただきましたことが大変印象に残っております。国土交通省の中にもアーコム大臣のファンがたくさんおります。昨年、バンコクで日本と ASEAN の交通大臣の会議があり、私も出席しましたが、そのホストとしてアーコム大臣には大変温かいおもてなしをいただいたことを記憶しております。

日本とタイの関係でございますけれども、ご案内のとおり古くから政治、経済、文化さまざまな側面で大変強い絆が結ばれております。大変多くの日本企業がタイに進出しており、日本人にとってタイは従来から大変人気のある観光地でございました。また、近年はタイから日本を訪れるお客様は急速に増えております。ここ 4, 5 年の間に 2 倍を超える勢いになっており、昨年は初めて 100 万人を超えた状況でございます。交通分野でも様々な関係が結ばれております。都市交通、新幹線、道路交通の安全、駅の周辺開発、様々な分野での協力関係が結ばれております。私も昨年バンコクを訪れました際に都市鉄道パープルラインに乗る機会がございました。また、バンスーの駅やその周辺の開発用地の状況を拝見しました。パープルラインの高架からバンコクの街を見ますと、モータリゼーションが先行した中で都市鉄道を整備するということの難しさを実感するとともに、我が国の経験した課題とは異なる課題をお持ちではないかと感じました。バンスー駅周辺の開発については、スマートシティを目指して色々なプランが作られていますが、このような経験はきっと我が国にも役立つ部分が大いにあるのではないかと感じた次第です。

本日のご講演を契機として、さらに多様な分野で日本とタイの交通関係、交通分野での協力が深まりますこと心から祈念をいたしております。今日のご講演に期待を申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

(以上)